

平成29年度第2回別府市総合教育会議議事録

1 日時 平成30年3月27日
開会 午前10時 閉会 午前11時

2 場所 別府市役所1階 レセプションホール

3 出席者

(構成員) 別府市長 長野 恭紘
教育委員会
教育長 寺岡 悌二
教育委員 福島 知克(教育長職務代理者)
教育委員 明石 光伸
教育委員 高橋 護
教育委員 小野 和枝

(事務局) 総務部総務課参事 本田 壽徳
総務部総務課主査 藤内 洋一
教育参事 湊 博秋
教育次長兼社会教育課長 高橋 修司
教育政策課長 月輪 利生
学校教育課長 姫野 悟
学校教育課参事 猪俣 正七郎
教育政策課参事 末光 淳二
教育政策課課長補佐 加藤 ひろみ
教育政策課課長補佐 志賀 貴代美

4 議題

- (1) 確かな学力の定着について
- (2) その他

本田総務課参事

おはようございます。皆様お揃いになりましたので、これより平成29年度第2回別府市総合教育会議を開催させていただきます。

最初に、長野市長に御挨拶をお願い申し上げます。

長野市長

皆様、おはようございます。教育委員の皆様方には、年度末の大変お忙しい中にもかかわらず、総合教育会議に御出席を賜り、心から感謝を申し上げます。ありがとうございます。

平成30年度から、この4月からは、かねてから私どもの総合戦略にも掲げさせていただいております「別府学」が全小中学校各学年においてスタートを切ることになりました。今現在もそれぞれの取組をさせていただいておりますけれども、この「別府学」が様々な取組を行うことで、子どもたちによりふるさと別府への愛着をもってもらって、いずれ別府以外の所に出た時にも何かしら思いを持って、別府への様々な貢献をしていただいたり、またいずれは別府に帰って来てがんばろうと、そういう気持ちも育ていきたいということで、ぜひともこれから皆様方のお力をいただきながら「別府学」にも取組んでまいりたいと思っております。

そして、いよいよ平成32年度の小学校3・4年生より外国語の活動が始まり、5・6学年においては外国語の授業が始まるということになりました。新しい時代に即応した活動が始まるということになると思います。

別府市の場合は、申し上げるまでもありませんけれども、非常に外国語教育という面においては恵まれた環境にあると思っております。恵まれた環境をしっかりといかして、日ごろから子どもたちが街中で外国の方と会った時に笑顔で冗談が言えるような、それぐらいのレベルまで達することができるといいなと個人的にも思っておりますし、そういう環境をいかした取組をさらにしていきたいと思っております。

本日は平成29年度の第2回目の総合教育会議ということでございまして、前回活発なご意見をいただきました「確かな学力の定着」の部分においては、私自身も教育委員会と協議を重ねてまいりましたし、皆様方からもしっかりお力をいただいて、内容に反映をさせるようにということで、今日ご提案する内容は前回よりもさらにいい内容になっているのではないかと思っております。本日も忌憚のないご意見をいただいて、別府の子どもたちの将来のために、これから私どもができることをしっかりとやるということで、引き続きお力添えをいただければと思っております。どうぞよろしくお願い申し上げます。ありがとうございました。

本田総務課参事

ありがとうございました。これより議事に入ります。

別府市総合教育会議運営要綱第3条に、市長は議長として会議の議事進行を行うものとする規定されていますので、以降は、市長に議長として議事を進めていただきます。市長よろしく願いいたします。

長野市長

ただいまより、私の方で議事を進めさせていただきたいと思ひます。

別府市総合教育会議運営要綱第6条第2項に規定されておりますので、今回の議事録署名は、寺岡教育長にお願いしたいと思ひます。よろしくお願ひします。

(寺岡教育長 承諾)

議題1でございますが、議題1は第1回総合教育会議から継続協議となっております「確かな学力の定着」についてです。第1回総合教育会議において、私の方から「学力定着が進んでいない原因や今後、どう取組んでいくのかアクションプランを示してほしい」という意見を出しました。この点についての説明を学校教育課長よりお願いいたします。

姫野学校教育課長

おはようございます。学校教育課長の姫野でございます。今、議長からありましたとおり、私のほうからプランについて説明をさせていただきます。

まず、お手元配布資料の「別府市学力向上アクションプラン(案)」という冊子をご覧ください。本日の報告・協議を経まして、成案等いたしたいと考えております。

恐れ入りますが、同資料の最後のページ、横向きの資料になりますけども、アクションプランの概要を1枚にまとめております。本プランの作りですけども、まず4つで構成しています。1つ目は基本的な考え方として、趣旨をまず示しています。教育方針に基づいて、確かな学力の定着を目指しますということを書いています。2つ目として目標、3つ目として、目標に対する現状、学力や生活の様子を基準としています。そして、4つ目は具体的な取組として、算用数字の1・2・3・4と4つありますけども、1つ目が授業力の向上についての各施策、2つ目が教職員研修についての各施策、3つ目が人的支援についての各施策、4つ目が環境づくりについての各施策ということで、記述しております。このような構成で作っております。

では、具体的な中身についてご説明申し上げますので、資料の1ページにお戻りください。前回のご指摘を受けまして、まず様式を整えて、内容をすっきりさせて、ポイント・論点を明確にしていまいりましたので、今日はそのあたりをご報告したいと思います。

まず、策定の趣旨でございますけども、1行目に書いてますとおり、教育行政基本方針における教育目標を唱えて、自立して生きていく人づくりを推進していくこと、また、質の高いよりよい学校教育の実現を目指していくこと、中でも、よりよい学校教育の実現には、確かな学力の定着が不可欠であるということ、これらのことをふまえて、今後の改善の方向等・方策等を盛り込んだ別府市学力向上アクションプランを作成しました。なお、本プランの見直しについては、10年後の姿を見据えつつ、3年スパンで検証・改善を行っていくということで考えております。

目標です。10年後の姿はどう描いたかということでございまして、1.中期目標〔2027年度〕を目標として、本市の平均正答率が県平均正答率以上となる、県において真ん中から上を安定的に確保するということを中心目標といたしました。短期の目標はそれに向けて、平成29年度の現状から少し学校が個別にがんばっていただいで、全国平均を上回る学校が増えるということを中心目標としております。この目標に向かって今後取組を進めていきたいということでございます。

2 ページをご覧ください。 . 本市の学力等の状況でございますけども、まず、小学校でございますが、3年生・4年生・5年生・6年生とございますが、別府市の学力調査、および県、あるいは全国の学力調査の結果を記載しております。一番下4行に小学校の全体的傾向をまとめております。時間がありませんので、この部分で今日ご説明を差し控えますが、小学校の全体的傾向といたしましては、全国学力・学習状況調査の問題に対応できる学力を身につけることが課題と考えています。かなり歯ごたえのある問題が全国調査では出されましたので、このレベルの設問に対してしっかり答えることができる、そういう学力を身につけていかなければならない。上の表にありますとおり、5年生以下は市の調査や県の調査と比較すると専ら上回っているところがほとんどです。ですから、この学力が本当に6年生になった時に全国調査で良好な結果を出せる学力と言えるのか、そこらへんを厳しくやっぱり見ていかないといけないというふうに現状を把握します。

3 ページをご覧ください。今度は中学校です。表については同様の示し方をさせていただいております。一番下の3行をご覧ください。中学校の全体的傾向でございますが、市調査の結果からは、現在の指導で学力を着実に身につけている様子が伺えますが、同じように中3の全国調査で見ますと、まだまだ全国調査レベルに対応できる学力を身につけているということまでには至っていないだろうと考えられます。ですから、中学校においても成果は着実にでておりますけれども、更なる授業改善が必要というふうに考えております。各教科の傾向については表に出ているとおりでございます。

4 ページをご覧ください。4 ページは2 . 学習習慣や生活習慣等の調査結果の概要ということで、生活面、質問紙から少し分析をしております。まず(1) 平日の家庭における学習時間の使い方ですが、表にある結果についてまとめたものが4行の文章でございます、2行目の後半部分です。メールやインターネット等の携帯電話の使用時間が小・中学生とも長くなっています。家庭との連携の下、望ましい生活習慣づくりを推進していく必要があるといえると思います。(2) 学校生活でございますけれども、学校に行くのは楽しいとか、友達に会うのは楽しいとか、好きな授業があるとかというのがポイントですけども、楽しいというのは結果としては良好な結果で、全国や県と同レベルなんですけども、好きな授業があるということについては、小学校で若干低い傾向にあります。ただ、これは比較としてみた時に低いのであって、9割以上の生徒が楽しいと、好きだと考えてますので、今後一層魅力的な授業の創造、わかりやすい授業の実施が必要だと考えております。

5 ページをご覧ください。(3) の基本的な生活習慣です。朝食と就寝についてです。朝食を毎日食べている小中学生の割合は、全国や県よりも低くなっています。規則正しい睡眠のあり方についても安定さを欠いている。同じくらいの時刻に寝ているが、いつ寝るかというのが実は問題なんだろうと思っています。今後とも基本的な生活習慣の確立に向け、家庭との連携をしていく必要があると考えております。(4) 規範意識でございます。決まりや約束を守っているか、人を助けるかということでございますけども、3つ目の人が困っているときは、進んで助けるが全国や県に比べると若干低い傾向といえます。学校の教育活動全体をとおして、やさしさとか、思いやりとか、そういったものを育む教育、道徳教育の一層の充実に努める必要があります。

また、家庭や地域の教育力を活用する必要もあろうかと考えています。いずれにしても、4つの項目とも生活習慣ややさしさ、おもいやりについては家庭を含めて、地域まるごと取組を進めていかなければならない現状にあると分析しております。

では、6ページをご覧ください。県の平均水準以上にいくと、なおかつ家庭と連携して生活をしっかり作っていくと、こういった課題意識の中で、どういう具体的な取組をしていけばよいかということで、先程申し上げた大きな3つの括りでまとめています。まず、1.の授業力の向上でございますけども、これは一番基本的にやらなければならないことだと思います。(1)に学校力強化支援事業(仮称)の実施とあります。平成31年度の事業開始をめざして、関係課と協議を進めていきたいと考えているところでございまして、内容は4点でございます。は補充学習教材の研究の推進です。現在問題データベースというのを採用しておりますけども、これについて、市独自でさらに良いものがないか研究をしていきたいと考えております。です。財政支援の充実です。成果の出ている学校、それから、成果は今出ていないんだけどもがんばろうとしている学校に何らかのインセンティブとしての財政支援が行えたらと考えております。これも関係課と今後協議を進めていきたいと思っております。それから、の教育実践研究発表事業でございます。これは再編という形になっています。現在、およそ7年に1回、各学校に研究発表会を実施していただいているところですが、そういうやり方を少し変えて、主体的に研究発表をする学校に対して財政支援をしていくと。毎年やる学校があれば毎年支援をいたしますし、2年に1回する学校があれば2年に1回支援をさせていただくと。各学校が自主性に基づいて切磋琢磨すると、そういうことを期待して内容の再編をしたいと考えております。それからです。ここが大きいと思うんですけれども、中学校は共通評価テストの導入・活用による短期の指導の見直し及び補充指導の実施ということで、先生方が評価テストを共有して、それをうまく使って短期に見直しをしていく、それで補充学習をしっかりとやっていく。こういうことができる学校が成果が出ている。できてない学校は厳しいのではないかなと。やってるんだけど成果が出ないと。そういったことについて、今後しっかりと取組を進めていきたいと考えております。

(2)です。授業改善の一層の推進です。これも4点ございますが、ここは少し簡単に説明します。まず、は授業スタンダードということで、市の目指す授業像を具体的に示した資料を作りたいと考えてます。は市の学力調査の継続実施、は学校間の格差がありますので、課題のある学校へ指導主事を重点的に派遣を増やしていきたいと考えてます。です。先程のと同じですが、教科部会、生徒による授業評価、評価問題の共同作成、こういうことをやっている学校がやはり成果が出ていると考えてます。ですから、こういうことをしっかりと市内の各学校が取組むように、今後力を入れていきたいと考えてます。このの効果が大いではないかと考えています。

(3)です。各種調査及び調査結果の活用です。これは調査結果を活用しますという内容です。

(4)7ページに移りますけども、学校図書館を活用していきますという内容です。

2.のくくりです。そういった授業力の向上に向けては、教職員の研修が必須だと思いますので、教職員研修に力を入れていきますということで、まず(1)は管理職

や教務主任等のマネジメント力向上という、学校が組織的に取組を行っていくためには、当然リーダーシップを発揮していただく必要がありますので、そういうリーダーシップを発揮する立場にいらっしゃる方に対してマネジメント力向上に向けた研修を実施していきたいと考えております。(2)は別府市総合教育センターにおける教員研修の充実ということで、今も含めてセンターは研修機能を持っておりますので、十分に活用して、～にあるような研修を平成30年度までに逐次始めていきたいと考えております。

3. 人的支援です。何よりも人というものが学校が今一番欲しているもののひとつだろうと思いますので、(1)スクールサポートスタッフ活用事業の実施でございます。これは平成30年度既に予算要求させていただいているところで、議会でご承認いただいたところでございます。小学校1校、中学校2校で先生方の業務を補助する非常勤職員を配置いたします。また、効果があれば、県教委に要望して、更なる県の補助を獲得していきたいと思っております。

(2)いきいき支援員の充実でございます。これは既に実績を上げていただいているところで、今後引き続き実施してまいりたいと思っております。

4. 環境づくりでございます。(1)大学と連携したグローバル人材の育成ということで、別府の地の利を生かすために別府市内にある大学と連携しつつ、3つのことを実施していきたいと思っております。は、イングリッシュキャンプ等において、ALTとか留学生とか交流の機会を持って、先程市長の発言にありましたように外国語のコミュニケーションができる生徒に別府の子どもをしていきたいと、別府の子どもをこういう生徒にしていきたいと考えております。それから、英語検定試験のサポートをできればと思っております。留学生による受験の支援ができればと考えております。これは実現に向かって学校と連携をしていきたいと考えています。今後の検討課題であります。番目が外国人児童生徒の就学前体験教室を開催しまして、日本での学校生活の様子をしっかりと事前に教えると、そういうことに取組んでまいりたいと思っております。

(2)コミュニティ・スクールの推進でございます。これは現状、今進めていただいているところで、8ページになりますけども、学校公開を積極的に進めます。番目は運営協議会を通じて子どもの支援をします。番目は小中連携の取組を一層推進します。番目は補充学習と運営協議会をうまく利用して個別指導の充実に努めていきます。現状行っていることをさらに推進していきます。ということでございます。以上、根幹の内容でございます。ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

長野市長

はい。皆さまからご意見・ご質問がありましたらお願いしたいと思っておりますが、いかがでしょうか。かなり中身は充実したものになっていると思われそうですし、時間はたっぷりあります。気になる点等ありましたら。はい、明石委員どうぞ。

明石委員

6ページの具体的な学力向上の取組のところで、学校間格差があるのは間違いない事実なんですよ。4番の共通評価テストの導入・活用による短期の指導の見直し及

び補充指導の実施について。この共通評価テストの導入についてというのは、したことはないですね。市では。これは、われわれの高校の時も県下一斉試験についてというのがあって、その結果で大学をどこにするかについていうのに決めたりしていましたが、それが非常に役に立ったんですけれども、このやっぱり学校間格差があるという中で、やはり市の一斉の試験についていうのを独自にされると、それによってどういうところがうちの学校がもっとがんばらないといけないとかいうのがわかると思うので、学校間格差をなくすという面においては、別府市一斉の試験をされたらいいのかなと。できれば、大変でしょうけど、学期末にすればもっといいのかなという気がいたします。ぜひ、それを具体的な取組のところですね、されたらいいのかなと思います。

長野市長

はい。事務局から、何か。

姫野学校教育課長

はい。今のご意見と同様のご意見をこれまでも伺っています。市で行う独自の共通評価テスト、これが様々なレベルのテストが考えられると思います。ひとつは、今現に行っております市の学力調査、これを年間複数回するということが、一番大規模な独自調査になるかと思えます。これにつきましては、予算措置が伴うことですので、十分な協議・検討が必要かと思っております。その可能性については、もちろん視野に入れつつ、試算を進めていきたいと思えます。一番身近なところでできるものとするならば、学校の先生方が主任さん等を中心に集まって、自分たちで手作りした評価問題を、大きな市統一テストみたいにはならなくても、同じ問題を各学校が使って、その結果をお互い持ち寄って、自分たちの普段の指導を比べてみる、いい意味で比べてみると、そういう手作りテストの共有、これは(2)の授業改善の一層の推進の 番にも書いてますけども、ここが一番身近にできる場所だと思います。そういったことも合わせながらの取組が一番現実的なことと思えます。ぜひ、先生たちが手作りでする共有の評価問題を複数校で活用して、自分たちの指導を見つめなおすことをぜひ進めていただければと思っております。以上です。

長野市長

ちなみに、今言われた、今やっている学力調査についてというのは、どの程度の調査をやっているのか、内容がわかれば教えてください。

姫野学校教育課長

今、別府市が行っている学力調査は、小学校3年生以上で調査を行っています。2ページ・3ページにその結果をお示ししておりますけども、別府市の調査では教科は国語・算数・理科ですね、中学校は国語・社会・数学・理科・英語となっております。

年間1回実施ということで、あくまでも学習内容についての分野で、3学期の2月・3月で年間1回実施をいたしております。以上でございます。

長野市長

ただ、それが前回もたぶん議題になっていて、じゃあそれがなぜいいのか？なぜ悪いのか？というところの検証をどういうふうにしていますか？というところが課題になったと思います。

姫野学校教育課長

はい。市の学力調査及び県や全国の学力調査において各学校で分析をして、どこが弱かったのかと合わせて、なぜそういう結果になってしまったかということの分析を各学校でしていただいております。学力向上会議、コミュニティ・スクールの学校運営協議会の会議と重ねている学校も多いと思いますけども、その場で各学校から分析結果を報告いただいて、運営協議会の委員さん、教育委員会の指導主事・社会教育主事等参加しておりますので、そういう一堂に会する場で検討しているということでもあります。教育委員会のスタッフが各学校で行われた学力向上会議等の分析について持ち寄って、それを蓄積していくと、そういうことで原因の解明をしていきます。

明石委員

今、課長さんが言われた、学校の先生たちが自分たちで作って、それを共有して、学校で当番制みたいにして、それを一斉に他の学校も利用して、というふうにした時に、ちょっと気になるのは、毎年別府市の子どもたちは算数・数学の活用が悪いんですね。活用が特に。だから、算数も問題見ましたけど、掛け算・割り算の計算はできるけど、それを利用した活用・応用問題がいつも低いから、それは社会に出て一番大事なことでしょね。だから、割り算・掛け算といった数学・算数の意味をです、もっと工夫してやっていただければなと思ってるんですね。毎年活用が全国平均より低いんですね。

姫野学校教育課長

ご指摘のとおりでございます。活用能力をつけるというのが一番教員にとっては骨の折れる作業です。その為には、やっぱり授業、毎日の授業で、しっかり教える授業と考えさせる授業、教える授業についてはこれまでもやられてきたと思うんですけど、まだまだ授業自体が考え・議論する授業、なぜなのかということ子どもたちが深く追究していくような授業がまだ足りないという証だろうと思いますので、本質的なこととして、授業でしっかりと、1時間の授業の中で考え、議論させて、思考を深めていくと。そういう授業をもっともっと充実していかなければならないと。一方で、しっかりと教えていくことは、しっかりと教えていくと、その両輪をうまくバランスとってまわしていくということが大事だと思いますので、その点については、引き続き校長先生方も認識されていると思いますので、一緒になって努力してまいりたいと考えているところでございます。

福島委員

英語・国語・理科・算数で、全部を学力向上に持っていこうとする訳ですよ。そうすると、英語の好きな子、算数の好きな子、理科の好きな子、みんな平等に学力向上、学力向上って一緒にやっていくんですね。なかなか、私はわからないと思うん

ですよね。英語の好きな子、国語の好きな子、理科の好きな子と分けてですね、分けてしまってますね、英語が例えば80点以上取れる子、数学が80点以上取れる子だけ集めてテストする。そして、そこで勉強ってこういうふうになれば、他の科目も取れるんじゃないかなっていう努力の仕方を教えてあげるっていうか、モチベーションをつけてあげるっていうのは、非常に大切って思ったんです。私もですね、中学の時だったか忘れちゃったけれども、数学の先生が一生懸命やってくれて、数学だけは本当によかったんです。そうすると、他のことも少々やれるようになって、いっぺんにやらせると努力のコツがわからないからですね、もう一度子どもたちに私としては試してあげてほしいなあという感じがするんですね。要するに、何か月間か理科のテストだけをやって100点取れるようにする。そうすれば、私はこうすれば良くなる、僕はこうすれば良くなる、そういうモチベーションをつけさせる意味でやらないと、今の子どもたちがどうなっているかと言うと、子どもたちを見てると、塾に行っている子は2年先、3年先のことをやってる訳ですね。塾に行っていない子は、もちろんやってない。その学年がきた時に、塾に行ってる子たちは、それはもう2年も前、3年も前に習ったことだから、面白くなくてやらない。もちろん、塾に行っていない子は3年になっても一生懸命やらないといけないから、もう投げやりになってしまう。そこを努力を、塾に行っても努力させないといけないし、塾に行っていない子も努力させないといけないっていうのが、先生たちの一番のジレンマじゃないかと思うんですね。同じ人たち、同じ教室の中でその両方を扱っていくのは。そうすると、今言ったみたいに最初にモチベーションをつけさせる努力、努力でモチベーションをつけさせるようにですね、得意な科目だけを一生懸命褒めたり、褒めればことわざ通りに...私はそういうのも1回試してほしいなあという気があってですね、最初の学力向上の1番1ページの策定の趣旨の中に「努力」っていう言葉と「モチベーション」っていうことを組み入れたようなことを指定していただいたらと思ったもので、明石先生の発言を借りてちょっとフォローした感じですけども、いかがでしょうか。

姫野学校教育課長

貴重なご意見ありがとうございます。その子たちだけを集めてテストするというのは、また検討させていただくとしてですね、貴重なご示唆をいただいたなと思っておりまして、子どもたちは、今日は今から国語の時間だから自分は国語の頭の使い方をするとか、次の時間は数学になったから今度は数学的な頭の使い方をするとか思っているんじゃないんですね。その子丸ごとで各教科の授業にぶつかってくると、ですから、ひとつの教科で身につけた学び方が他の教科にもいかされるとというのは、たしかに仰ったとおりだと思います。とはいえ、今度は逆から考えると、でも、興味・関心の傾向があったり、どうしても得意・不得意があるので、主体的に取り組む教科があれば、ちょっと苦手意識を持って取り組む教科もあると。そこで、いかに好きな、得意な教科で引っ張っていくかと、きっかけを与えてやるかと、まさにそういうご指摘だったと思います。そうすると、何が大事なかなと考えた時に、やっぱり小学校のすべての教科、すべての先生、中学校で言えばすべての教科の先生が、本当に魅力的な授業をやらないと、国語の先生がいつも常に魅力的な授業をやっていけば、国語が得意な子はそこでひっかかって、興味を持ってやっていって、モチベーションが上がり、学び方を学

ぶと。そうすると、子どもは他の教科でも同じ頭の使い方をしますので、数学や理科にも応用されていくと。小学校でも同じだと思います。ですから、まさに仰るとおりでありまして、それぞれすべての先生方が自分の授業を磨いて、いつでも子どもたちを引っ張っていけるような、そういう授業をしていくと。まさにそういう授業を目指していきたいと思います。

福島委員

よろしくお願いします。今30人か35人学級なんですね。そうすると、分類してもしれとるんじゃないんですかね。10人ずつ分かれたら3グループしかないし、7人に分かれても4グループしかないし、それぐらいなら、ひとりの先生がベテランなら掌握できると私は感じるんですけどね。あと1歩も2歩も先に行ける感じがします。

長野市長

今、福島委員が言われるように、この策定の趣旨のところでもモチベーションを上げていくような取組みたいなことを文言として、方向性として入れていただくのもいいんじゃないかと思います。その中で、今福島委員が言われるような、具体的なその為の取組はどんなことだということも、ぜひ、またご提案いただけるといいんじゃないのかなと思います。

明石委員

今、福島委員さんが言われるように、落ちこぼれをなくす意味においても、好きな科目を作ってやるというか、それぞれ社会に出ても、それぞれの特徴というか、「これならできる」というのを作ってあげるといのは、非常に勇気にもなりますし、だから子どもさんも「この科目なら自分もがんばれる」ひとつそういうのを作ってあげると、落ちこぼれもなくすんじゃないかなと思いますし、今課長が言われましたように、先生って非常に大切なんですよね。その科目を好き嫌いになるのも先生次第っていうのが非常にあるんですよ。私自身がそうでしたから。あの学年の時のあの先生のお陰で得意になったっていうのがですね、福島委員の数学のように僕もそうなんですけど、その数学の先生がとても魅力的で、あの先生のためにがんばろうっていうようなことですね、だから、先生っていうのは本当に大事だと思うんですよ。特に義務教育の間は、自分でやっていくっていうよりも先生に影響されることのほうが多いので、ぜひ、そういう先生をですね、お願いしたいなと思うんです。

長野市長

先生方の働き方改革っていうところも、今全国的にもやられてますんで、先生方も持ち帰ってやるような作業も多くて、まあそれはそれとして大変なんでしょうけど、その為に前回言ったように、お金をかけて、それがクリアできるようなことはしっかり入れていってもかまいませんからというようなことを言っているわけで、我々行政もそうだし、教育ももう言い訳できないところまできてると思うので、その具体的なきちっとしたアクションプランもできているので、それをいかに今ご意見いただいたようにやるかということですね。

高橋委員

今回ご提示いただいたこの策定の趣旨、あるいは目標、これは非常にわかりやすいし、その後こういうふうなことで取組を始めるんだということで述べられております。非常にこれは大事にしたいなと思ってるんですが、教育委員会のほうでも以前から話題になっておりました。やはり基礎の定着を考える上で、読み書きそのものという言葉が今までも委員会のほうで出ておりました。小学校3年生、4年生までに、基礎・基本というものがどれだけ身につけているか。小学校では成績が上がってきたんですが、中学校になったらマイナスになってる。やはり、中学校になるとより難しい教科になっていきますので、子どもたちが学校の授業についてきていないというところが非常に心配になってるんですが。やはり基礎・基本が小学校3・4年生までにどれだけ身につけているかということが非常に大事ではないだろうか。だから、中学校の先生が「小学校の時に何しとったんか」というふうなこと、あるいは、小学校の時は成績が良かったのに、中学校で落ちてしまったという、小学校と中学校の連携がうまくいってないというか、子どもが少し弱さを感じながら、難しさを感じながら中学校に行っているのかなと思うと、やはり、基礎・基本というものがどれだけしっかり身につけているかだと思います。それと平行して、今回5ページにやさしさや思いやりという言葉が出てきました。これも非常にいいのではないかと思います。やはり、社会に出て、この社会の一員として生き抜いていく為には、この心もやっぱり同時に身につけていただかなければいけない。そこにやはり家庭の教育力、あるいは地域の教育力というのが非常に大事になるんだろうというところから、もっともっと地域の皆さん方のお力も学校側としてはお借りしてもいいんじゃないかなと。みんなで子どもさんを育てていく、そういう姿が別府市にもあらわれるとですね、「教育のまち別府」っていうのがいきていくのではないかと、そういうふうな思いであります。

姫野学校教育課長

はい、ありがとうございます。今言っていたいただきました心の育成について、例えばそういう心が育って、安心した心を持ち、安心感の中で学校生活を過ごす、それが前提となって学力が身についていくんだらうと思います。毎日不安でたまらない学校生活を送っていて、それで学力が定着するかというところもあるかと思います。人間の本質として、やさしさ・思いやりも大事だと考えております。その件につきましては、本プランが全体としては学力に特化したプランでございますので、強烈に打ち出すことはできませんでしたが、例えば7ページの1 .の(4)学校図書館ですね。図書館としては学習センターとしての機能も情報センターとしての機能とかもありますので、即学力優先で言えば、学校図書館をそういうところで活用していくっていうことになるんですけど、ここではあえて、本に触れる楽しさ、読む楽しさが豊かな心を育てるということで、図書館で先ほどの問題も取組んでいきたいと思いますということで、述べさせていただいてます。それから、最後4 .の(2)コミュニティ・スクールのところで、地域をあげて子どもの育成にあたりましようということで、この問題については、その辺で述べさせていただいてます。本プラン以外のところでも、そもそも学校教育として、心のあり方についてはしっかりと取組んでいきたいところであ

ります。

高橋委員

私が伺いました中学校さんの卒業式で、学校にいつもおみえいただいている読み聞かせグループの方々が生徒さんお1人お1人に卒業メッセージを贈られたというお話を伺いました。これは保護者のグループと思うんですけども、これが地域から出てくるといいなと。町内で中学校を卒業された、小学校を卒業された、それを町内のみなさんでおめでとうと言ってあげて励ましてあげるというのも、やっぱり大事なことでないだろうかという思いがしております。

小野委員

先ほど、各学校で評価テストをなさってるってお聞きしたんですけども、学習習慣をつけるために、例えば、市として学力向上のためのワークシートみたいなものがある、それを各学校が活用できる、数値とか、問題とか、そういうのを変えたりとか、家庭学習のねらいによって変更できるようなものとか、創意工夫するようなものがデータとして1つあって、それを各学校で使えるようにできるようなことは、できるんですか。

姫野学校教育課長

今のご質問ですけども、6ページの1.授業力の向上の(1)学校力強化支援事業の現在採用の問題データベースがありますよとご説明を申しましたけども、これは市としても導入してますし、県の教育委員会が全県下に問題データベースとしていて、教材会社のホームページに行くことによって、その問題をダウンロードして使うということで、今各学校で積極的にご活用いただいて、組み合わせてもできます。これが市内共通の共有問題に該当します。それから、家庭方針につきましては、これまで家庭学習の手引きというか、市統一で作ってまいりまして、同じ様式で取組をしていただいています。次年度からは、基本データを学校教育課から差し上げて、各学校がそれに独自性をふまえて、より子どもたちの実態に近づけた家庭学習の手引きを作って活用していく、そういう計画にしております。以上です。

小野委員

まだ先のことなんですけど、英語が入るとということで、私としては、別府の学校に行けば英語じゃなくてコミュニケーション・会話ができる、別府の学校に行けばコミュニケーション、英語でお話できるようなものを、ぜひ目指していただきたいなと思っております。

姫野学校教育課長

今、ご指摘の件につきましては、7ページの4.環境づくりのところで記載させていただいてますけど、これは市の方向性、市長のご理解のもと、大学は3大学、留学生がいて、そういう地の利がありますので、そういう地の利を生かして大学と協定な

りを結びながら、包括的にさまざまな面で別府の子どもたちに外国語と触れる機会を提供していくと、こういうことに取組んでまいりたいと思いますので、今小野委員が仰ったとおりですね、そういう子どもたちを目指して進めていきたいと思っております。

寺岡教育長

子どもたち一人ひとりの学びを充実していくためには、望ましい教育環境が必要だと思います。その1つとして、エアコンの整備をしていただいて、子どもたちの教育環境、あるいは学力全てにおいて、非常に過ごしやすい別府市の学校になったと本当に感謝しております。もう1点は、学校格差の是正ということを最初に明石委員さんから出されたけども、別府市ではどの学校に行っても同じような教育が行われていて、保護者も地域も安心できる、そういう学校づくりをする為に、じゃあ学校格差の是正のために統一した教科テストを実施する、実際に今やっておりますけども、それをさらに先生方同士で自分たちで作ったものを各学校に広めていこうという、そういう先生方同士の子どもたちへの愛情と目的を持った取組は、今非常に求められていると思います。ただ、この全国学力テストが入る前の段階の、いわゆる学力偏重主義とか、競争主義になるとか、あるいは学力一辺倒になるとか、そういうところについては、しっかり学校教育課で評価をして、別府市の子どもたちの学びというのは、本当に今市長が言うふるさと別府に愛着を持って、別府から出てまた帰って来るんだというような力というのは、たぶん学力テストの結果もそうですけど、さらに、思いやりだとかやさしさという力を子どもたちにつけるといったことも必要だと思います。趣旨と長期目標と短期目標、そして、そのための取組ってというのは、今日事務局のほうから提案されましたけれども、これを今日出席されてます校長先生方、校長先生方が学校の中でどう周知徹底をしていただいて、そしてまた教育委員会もいろんな面でフォローしていただいて、本当に子どもたちが学ぶ喜びとか、学ぶ価値とかを体得できるような授業、あるいは学校づくりをしていただいて、それが結果的に調査の全国平均を上回る、そのような形になると一番望ましいと思っております。それから、外国語が4月から入ってきますので、今小野委員さんが仰いましたけど、本当に別府しかないようなことをごさいますので、有効にいかして、本当にいろんな壁のない、国境のないようなグローバル的な視点に立って別府を考えられるような、そういう子どもたちに、コミュニケーション力とか、人との思いやりとか、そういうものを身につけられるようになればと思います。ただ、9年間の終わりが高校入試でございます。先日、第2次試験が終わりました。で、高校入試でやはり第一希望落ちた子どもたちもいます。日出、杵築、大分、由布、周辺の子どもたちが別府に合格しています。そこでは、本当に現実的な厳しさもありますので、それも影響を受けながら、テストで確かに力をつけてあげないと、それは本当に思っているところです。ただ、子どもたちの夢とか希望を叶えてあげる為にも、教育というのはどうあるべきかということで、こういう取組プラス、本当にメンタル、あるいは友達、あるいは親、おうちの方、地域の方、そして、ひいては市長が言っているふるさと別府への思い、そういうものへの教育のあり方っていうものをもっとしっかりと取組をして、打ち出してあげて、地域とか保護者の方に協力をもらうっていうのは大事なかなと思います。今日こういうご意見をも

らいまして、これを本当に校長先生たちと行政と一緒にあって、これを周知徹底して市政に返せればと思っております。今日は本当に貴重な意見をありがとうございました。

福島委員

今、教育長が言われた学力至上主義、教育至上主義というのが昔あったんですね。競わせてた。だんだんだんだん世の中が豊かになって裕福になって、勉強しなくても食べていける。食べていけるかどうかは別にして、昔は食べていけなかったんですね。一生懸命努力したら食べていける。だんだんだんだんそれが今みたいになるとですね、何でもありの時代に20年くらい前からなったんですね。その時にですね、勉強をそういうふうにし、努力を教え込んだことによって何が起こったかということ、教育長が仰ったみたいに学校間格差が起こってくるわけですね。学校間格差だけならいいんですけど、会社に入ってもそうなんですけど、何でもありになってますからね、努力した人は非常に技術力が上がっていますし、努力してなかった人はそんなに技術力が上がらない。そこに格差がすべて出てきてるわけですね。格差の中で子どもに哲学的なことを先生なりのやさしい言葉で教えてあげてほしいというのをぜひともお願いしたいです。

長野市長

私から。私も福島委員さんの言葉を聞いて、経営者目線の発言というか、私も思うところもあって、理想は理想として掲げてしっかりやらなきゃいけないし、だけど現実的にはこうなるんだよということも、やっぱり子どもたちには、今バンと言うとえぐい話なんで、それをいかに「アリとキリギリス」ではないんですけど、やっぱりそれぞれの夢の実現の為には、どういうふうなことをそれぞれがやっていけないといけないか、それはもう道はそれぞれ違うので一律にどうだということではなくてですね、現実的な問題としてそれをどう伝えていくかというのは、やっぱり生きていけないといけない、飯食っていけないといけないので、しかも、人工知能がもうますます入りこんできて、もう3割、4割、5割ぐらいまでの仕事がなくなっていく世の中を、子どもたちにどうやってがんばって生きていけと、どうやって送り出していかってというのは、すごい責任あることだと思うんですよね。下手したら本当に今の5割の子どもたちは職にあぶれて仕事をできなくなるかもしれない、今やってる仕事をですよ。まあ、新しい仕事も生まれてくると思いますけれど、そこは確かに重要なことだなあって思います。同時に私が思うのは、それぞれの行政も部長さんたちにマネジメントしていただかなくちゃいけないと、それはやっぱり学校現場でいえば校長先生にいかにも、現場の学校の中のマネジメントをどうするかと、全体的には自分の学校がどうあって、じゃあどこが足りないからどこまで数値を伸ばして、それ以外のところで地域の特色に沿ったことをどうやっていくかみたいなのところのマネジメントですよ。その為には、しっかりそれをチェックする機能というのがやっぱりいるんで、それは行政経営会議であったり、この教育委員の皆さんだと思うんで、だからそれを先生方だけでやっていただくというよりも、むしろ、それを現実的に生の数字を我々にも見せていただいて、何でこうなってるんですかっていう、私たちの素朴な、教育の世界で

はない私たちの素朴な疑問などもあると思うので、やっぱりチェックする機能もやっぱりいるんだと、マネジメントをする皆さん方をチェックする機能っていうのが何にしている。行政も今チェック機能を作ってますから、それがいるのかなって感じますね。すみません。議長がベラベラ喋ってしまって。その他ございませんでしたら次にまいります。よろしゅうございますか。

貴重なご意見をいただきました。ありがとうございます。皆さんのご意見を生かして、今後も子どもたちの為に、今後も一丸となってがんばっていきたく思いますので、よろしくをお願いします。

議題の2.その他です。

姫野学校教育課長

では、その他ということで、ご報告を申し上げる点が2点あります。まず1点目でございますけども、別府市立学校業務改善計画（案）についてご報告申し上げます。前回皆様方には冊子をお配りしていると思いますが、まず、最終頁の概要図を用いて簡潔にご説明申し上げますけども、別府市立学校の先生方大変がんばっていただいています。その他、超過勤務の問題になっている現状、業務改善計画を策定するというところで、今教育委員会で計画の策定の真っ只中で、もうこれで出来上がっていますので、原案として今日ご報告させていただきます。まず、この計画ですけれども、4つのまとまりで構成されています。まず、策定の趣旨ですけども、中央教育審議会が緊急提言が出されたのが、昨年8月29日のことでした。その中で、健康の保持とか、やりがいのある勤務の実現、新学習指導要領での対応、教員の看過できない超過勤務の実態があるということの指摘を受けております。別府市では、別府市の勤務実態調査29年6月現在で、月80時間を越える教員数が82名ありまして、比率にしますと小中学校の全教職員の15.7パーセントにあたります。特に中学校においては、30パーセントを超えるという現状がございます。やはり別府市においても看過できない教職員の勤務実態の改善が必要であるという現状でございます。この現状をふまえ、どこを減らしていくかということで3.達成指標でございますけども、2020年度、現状15.7パーセントいる月80時間以上超勤の教職員を10パーセントまで押さえ込みたいと。できれば、1桁までもっていきたくと考えております。それから、2番目としては、その為に市教委として、主体的に研修会とか会議とかを縮減して、17年度の比較でいくと、10パーセントの減少を目指していきたくということを目指してあげています。この指標に向かって、2018年から3年間でスキームを示したものが4.具体的取組の工程表でございます。一番左の端に4つの観点で取組をまとめています。(1)番目が教職員の「勤務時間」意識の改革、(2)番目が実際の業務の削減、(3)番目がそれらを支える人的支援の充実、最後(4)番目が体調管理の促進となっております。3年間の計画で行いますけども、もうゼロ予算で、次年度からすぐに開始できること、例えば、管理職研修の実施、これは総合教育センターで実施。あるいは、学校の準備については、市P連等と相談しながら、できれば18年度から、これはゼロ予算でできますので、実施ということで。予算のかからないものについては18年度から着手したいと思っておりますが、予算構築を伴うもの、例えば、(3)の人的支援の、部活の指導者であるとか、専門家の配置促進でスクールソーシ

ャルワーカーであるとか、スクールサポートスタッフとか、全部予算を伴うものでありますので、県や別府市の担当課と協議をしつつ、進めていくというようなスキムで考えています。具体的な中身につきましては、1ページから具体的な取組になっています。今申し上げたことを少し詳しく説明しております。学校閉庁日につきましては、3ページの一番上に書いてありますけども、全国的に見ても、いわゆるお盆の3日間ですね、8月13日・14日・15日、これを、来客も少ないし、問い合わせも少ないし、各行事もこの間はほとんどなくて、ほとんどの先生方も休みがとりやすいだろうということ。先生方の勤務日ですが、学校は閉めといて、先生方は休みをとっていただいと。これはもう進んでいますので、別府市もこの方向で今考えているところです。

部活動の改善については、スポーツ健康課が担当ですけれども、学校に方向性については通知をしているところでございます。

非常に簡単な説明になって申し訳ございませんが、超過勤務の改善に向けた、改善計画については、以上でございます。

もう1点でございますが、部落差別解消のための教育推進基本方針・基本計画(案)をまとめ上げました。目次をご覧ください。つくりとしては、策定の趣旨、が現状と課題、が教育の基本的方向性、が指標で、この指標に向かった取組が という構成で作っています。部落差別の解消に関する法律が施行されて、とにかく、教育に関する期待が大変高まっています。学校の中で部落差別解消に向けた教育をどのように実施していくかという観点でこの冊子を作成しております。3ページをご覧くださいんですが、今現状の教職員の意識についてまとめてます。特に4ページの囲みの「教員の部落問題に関する法律等への理解が不十分、授業に対して自信がない教員が少なくない」、「人権・同和教育を推進する組織はできているが、実施回数に学校間の差がある」、「部落問題学習を保護者や地域とともに進めることができていない」こういう課題意識に基づいて以下取組を考えております。ご了承いただきまして、また教育委員会等でご意見を拝聴できればと思っております。よろしく願いいたします。以上でございます。

長野市長

はい。今の部分で、今日今までの件で何か、何でも結構です。委員の皆さんからご意見が、またご質問等があれば、お願いしたいと思っておりますが、いかかでしょうか。

明石委員

学力の向上には、やはり、子どもたちの体力、健康面が非常に大事だと思ってます。特に学校の先生たちも部活の改善が出ておりますし、またメンタルヘルスの改革というのが非常に大事で、今私、企業のいろいろ産業医をやっておりますけども、今企業で一番課題になっているのがメンタルヘルスですね。メンタルチェックは今厚労省が義務付けてやってますけど、ある意味タッチしてますけど、必ず事業主の方はびっくりするくらい「うちの会社は大丈夫だろう」と思ったけど、実際にチェックをみたら、やっぱり数パーセントはストレスが非常に強い人が出てくるというのがあって、これがやはり今からは大事な要素で、学校の先生たちもメンタルチェックされている

と思いますけど、どう対応するかっていうのが大事な要素ではないかなと思ってます。実際に私もメンタルヘルスの対応をしていますけど、これは本当に時間を要して大変な業務ですので、ケアしていかないといけないなと思ってますし、子どもたちも大きくなったら、やっぱり心の打たれ弱い人が非常に多いんです。だから、子どもたちも今のうちに、そういう打たれ強い子を育てなければなど。それには、部活がやっぱり大事な要素だと思ってらるんですね。やっぱり部活動の改善というのは非常に大事な要素で、ぜひ、学力も大事ですけど、部活動を通じた子どもたちの心の強さ、からだの体力をつけるという意味でもですね、ぜひ、両輪でがんばっていただければと思っています。

長野市長

教員の先生や子どもたちのメンタルケアについて何かありますか。

姫野学校教育課長

まず、教職員のメンタルヘルスについては、メンタルヘルスチェック、健康診断、健康診断の結果の再受診等について、校長会等で校長先生方にお話をして、今先生方も非常に学校で実施をきっちりしていただいて、実施率ほぼ100パーセントっております。非常に校長先生方がリーダーシップを発揮していただいているなと思っております。子どもたちの心の問題については、教育センターの相談員、スクールサポーター、スクールカウンセラー、臨床心理士がおりますので、学校に常に入って声を聞くように、これからも心がけていきたいと思っています。

明石委員

スクールソーシャルワーカーに頼るのではなくて、やはり部活とかを通じて、そういう子にならないようにする、なった子は確かにそういうのが大事でしょうけど。そういうふうにならないように前の段階が大事だと思うんですね、教育では。ぜひ、その辺をみてもらいたいなど。ストレスチェックは3つのことがあって、1つは業務が過剰ではないか、業務上の問題、2番目は心のストレスが一番強いと感じるか、3番目は職場、同僚とか上司がちゃんとサポートしてくれてるかどうか、その3つの段階でチェックしてますけど、あれを見ると、ストレスの強い人は同僚とか上司のサポートが少ない面があると非常にストレスを感じやすい傾向となってるから、やはり同僚とか上司のサポートとか、仲間とか、コミュニケーションですね、やはり学校現場での仲間同士の支えあいってというのが、先生たちのストレスチェックに非常に大いに関わってる気がするんで、ぜひ、校長先生がおられるんで、上司のサポートが非常に大事です。

長野市長

その他、ございませんか。いいですか。さっきの部活の話と重なる部分もあるかもしれませんが、飽きっぽい子とか性格的にもあるのかも知れませんが、「石の上にも三年」という諺があるように、3年がどうかわかりませんが、ある程度継続して何か1つのことにトライをさせるというような、教育現場でも部活でもいいし、

学校でも授業の内容を具体的に英語でもいいし、熱中して継続していけるという癖をつけるというのが、とっても小さい時から大事だなという感じがしますね。だから、それを小中学校の9年間でどういうふうに身につけさせて、すぐポーンポーンとつまらんから辞めるんじゃないかと、「もうちょっとやってみて、やってみないとこの先の楽しいことわからないよ」みたいな。そういうことをやっていただけると、将来 कोरोコロ職が変わったり、 कोरोコロやることを変えたりっていうのが、なくなることの1つにつながるんじゃないかなと期待するところがあるんですね。何かこの一言が参考になればということをお願いしたいなと思います。

姫野学校教育課長

貴重なご意見をいただきました。参考にさせていただきます。

長野市長

以上で議事を終了とさせていただきたいと思います。ご協力をいただきましてありがとうございました。進行を事務局にお返しいたします。

本田総務課参事

御協議ありがとうございました。

これを持ちまして、平成29年度第2回別府市総合教育会議を終了させていただきます。

本日は御参加いただき、誠にありがとうございました。